

都市再生整備計画(第5回変更)

おおとも し い せきれき し こう えん しゅう へん ち く
大友氏遺跡歴史公園周辺地区

おおいた おおいた
大分県 大分市

令和 2年 3月

活用する交付金	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	大分県	市町村名	大分市	地区名	大友氏遺跡歴史公園周辺地区	面積	212.5 ha				
計画期間	平成	29 年度	～	令和	2 年度	交付期間	平成	29 年度	～	令和	2 年度

<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ■大目標 歴史と文化を活かした魅力ある新しい大分の発展に向けたまちづくり □目標① 大友氏遺跡を核とした歴史・文化施設の回遊ネットワークづくりを行う □目標② 1300年間の県都を体現する石仏や神社仏閣、国指定史跡大友氏遺跡などの歴史文化資源を活かしたにぎわいと人の交流をうむ拠点を形成する □目標③ 地域資源を活かす人材の育成を行い、歴史文化情報発信を行うほか、インバウンドに対応した歴史文化資源の顕在化を行うことで内外の認知度を向上を図る

<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。</p> <p>本市では、平成30年度に策定した「大分市立地適正化計画」において「元気・安心・快適な暮らしを支える将来にわたって持続可能な「多極ネットワーク型集約都市」の形成」を都市づくりの基本理念として掲げ、将来における市域全体の暮らしやすさや活力の維持・増進につながり、だれもが将来にわたり身近な場所で安心して快適に暮らし続けることの出来る居住環境づくりを支えることとしている。</p> <p>JR大分駅を中心とした中心市街地およびその周辺部においては、「都心部の魅力の創出や都市機能の集積・強化」を図り、県都および東九州の中核として重要な拠点となる「大分都心拠点」の形成を図る。また、旧市町の中心部など歴史的に地区の中心的役割を担ってきた各「地区拠点」においては、地区の特性を生かしたまちづくりの推進による「地域の活力の維持・増進」を図る。さらに、拠点間を相互につなぎ、交流・連携の骨格となる「交通体系」の形成・強化を進める。</p> <p>基本理念の実現に向けた施策として、公的不動産の有効活用を掲げ、公共施設の複合化・多機能化・統廃合等を進めるとともに、廃止となった誘導区域内の公共施設跡地については、公共や民間による誘導施設整備の事業用地として有効活用を進めることとしている。さらに大分駅周辺の公有地においては、鉄道、路線バス、タクシーなどの公共交通の円滑な乗り継ぎ環境の形成に向けたパスターミナルの整備や民間施設との複合化について検討している。</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>・大分市は、奈良時代に国府がおかれて以来、1300年続く県都であるという歴史的特色があり、古代～中世～近世に至るまで、政治や文化の中心地は、上野台地を起点に反時計回りに移動している点を特徴とする。中でも戦国時代の大分を治めた大友氏の館が所在する大友氏遺跡を中心としたその周辺は、歴史的な資源にめぐまれた場所であり、現代のまちの中に様々な時代の遺跡が重なり合っており、当時の土地利用の痕跡も良好に遺されている。その後、江戸時代の府内城の築城と城下町の形成を経て、現在の大分市の文化的都市基盤の礎となった場所であると位置付けられている。</p> <p>・平成8年にはじまる市内中心部における大友氏関連遺跡の発掘調査・研究の結果、大友氏遺跡の価値が次第に明らかになり、戦国時代の豊後府内や大友宗麟の人物像に対する市民の関心も高まりつつある。大友氏遺跡のあり方については、魅力ある地域づくりや観光活用を視野に入れるなど、本市の各種計画においても重視されている。平成14年度に「大友遺跡検討委員会」を設置し、大友氏館跡の保存整備や遺跡を活用したまちづくりに関して総合的な検討をはじめ、平成16年の「大友氏遺跡を活かしたまちづくり検討委員会」では、大友氏遺跡の保存・整備・活用について具体的且つ実効的な検討を行った。同年度に策定された「大分市都市計画マスタープラン」では、大友氏遺跡一帯を「歴史文化観光拠点」と位置付けている。</p> <p>・平成18年3月に大友氏遺跡は地域の歴史と文化を知り、魅力的で個性あふれる県都大分市の「顔」に欠かせない資産であるという認識のもと「大友氏館跡歴史公園」として都市計画公園決定を行い、平成20年度には大友氏遺跡の本格的整備を実施するための公開活用を行う施設として「大友氏遺跡体験学習館」を開館し、戦国時代において世界的にも知られた国際貿易都市「豊後府内」について紹介している。</p> <p>・平成25年3月には、市制100年を機に、大友宗麟をテーマに大分市の歴史や魅力を情報発信する「大友宗麟プロモーション」事業を展開しているほか、平成25年8月には、市制100年を期に開催された「南蛮文化国際フォーラム」において、郷土の戦国大名・大友宗麟公の功績と我が国でいち早く南蛮文化が開いた豊後府内を誇りとし、魅力に満ちたふるさと大分を創造する決意を「南蛮文化発祥都市宣言」として提示され、大分市の新たな魅力として発信するに至っている。</p> <p>・平成26年3月に策定した史跡大友氏遺跡保存管理計画においても整備基本構想の項目があり、歴史公園としての実現に向けた長期的な指針を定め、平成27年12月には、具体的な整備の内容を示した「史跡大友氏遺跡整備基本計画(第1期)」を策定し、大友氏遺跡歴史公園整備に向け、大友氏館跡庭園部の整備に着手している。そのような中、令和元年10月にはラグビーワールドカップが大分市で開催され、国内外から多くの来街者が大友氏遺跡歴史公園における文化財の発掘状況や庭園部の整備状況を知ることが、大分市が歴史と文化を活かしたまちづくりを行っていることを周知する機会と捉えており、そのためには大分駅からの動線整備や周知が必要である。</p> <p>・ラグビーワールドカップにより周知された大分市の歴史と文化を活かしたまちづくりが、今後も更に周知され、利活用されるために、回遊ルートの更なる整備や、公園の魅力を高める周辺施設の整備など、周囲に点在する歴史・文化資源を含めた継続的かつ幅の広い事業や周知が求められており、そのことにより地区の活性化を図る必要がある。</p>
--

<p>課題</p> <p>①(回遊ネットワークづくり) 大分市中心部に所在する歴史・文化遺産を巡る観光ルート整備が不十分であり、また多くの人が訪れる芸術・文化施設や大分駅周辺部とのネットワークが形成されておらず、大友氏遺跡に代表される計画対象範囲に人を呼び込めていない。これらの遺産・施設との回遊性を高めるルート整備が必要である。</p> <p>②(歴史文化資源の活用) 大分県に訪れる外国人観光客の増加や、東九州道の開通や大分駅周辺の再開発等により大分市中心部における交流人口が増加する中、各時代の歴史資源が顕在化できておらず、大分市が歴史・文化に恵まれた「まち」であることを内外に周知できていない。</p> <p>③(歴史文化資源をいかしたまちづくり) 歴史・文化観光拠点としての拠点となる施設整備ができておらず歴史・文化を活かした個性と魅力あるまちづくりができていない。</p> <p>④(ラグビーワールドカップの機会を活かすための整備) ラグビーワールドカップによる来街者が大友氏遺跡を訪れる回遊ルート整備、周知を行う施設や手段が不十分。</p>
--

<p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>「史跡大友氏遺跡整備基本計画」に基づき、大友氏遺跡歴史公園を整備活用の基本目標「南蛮文化発祥都市おおいの創造・体感・発信拠点」として具現化し、歴史文化観光拠点として歴史公園や学習交流施設等の整備を行う。また、豊富な歴史・文化資源を地域住民や各種の市民団体と協働して発信していくことで、市民の誇りや市民全体での歴史・文化資源を活かしたまちづくり意識を醸成する。</p> <p>県都大分ならではの古代から近世までの重層的な歴史空間が体感できる歴史・文化の薫りがたどよう、個性と魅力あふれるまちづくりの実現をめざす。</p>
--

都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

大規模商業施設(店舗面積1,000㎡超)や行政機関など対象圏域が各地区全体となるような施設については、「都心拠点」と「地区拠点」の両方に誘導することが望ましい施設として設定している。
また、広域的に利用され、文化の醸成やにぎわい創出に寄与する文化会館・ホール、博物館など高次な都市機能については、「都心拠点」に誘導することが望ましいとしている。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方

本市では、都市機能誘導に係る施策の方向性の一つとして「都心拠点及び地区拠点の活性化」を掲げており、各拠点における回遊性・滞留性向上のため、快適な歩行空間や案内サインの整備、市民の交流の場となる広場や公園・緑地などの整備を推進するとともに、歴史・文化や地域資源を生かした街づくりに向け、地区の特性に応じたまちなみ再生や住環境整備を推進することとしている。

本事業地区は「都心拠点」に該当しているが、歴史文化資源の顕在化、歴史・文化遺産を巡る観光ルート整備に課題を抱えている。
そのため、本事業地区では、歴史文化資源の顕在化のため、大友氏館跡庭園部の整備に着手しているが、さらに事業効果を高めるため、歴史文化資源の魅力を高める周辺施設の整備、大分駅からの動線整備など周辺環境整備が必要である。

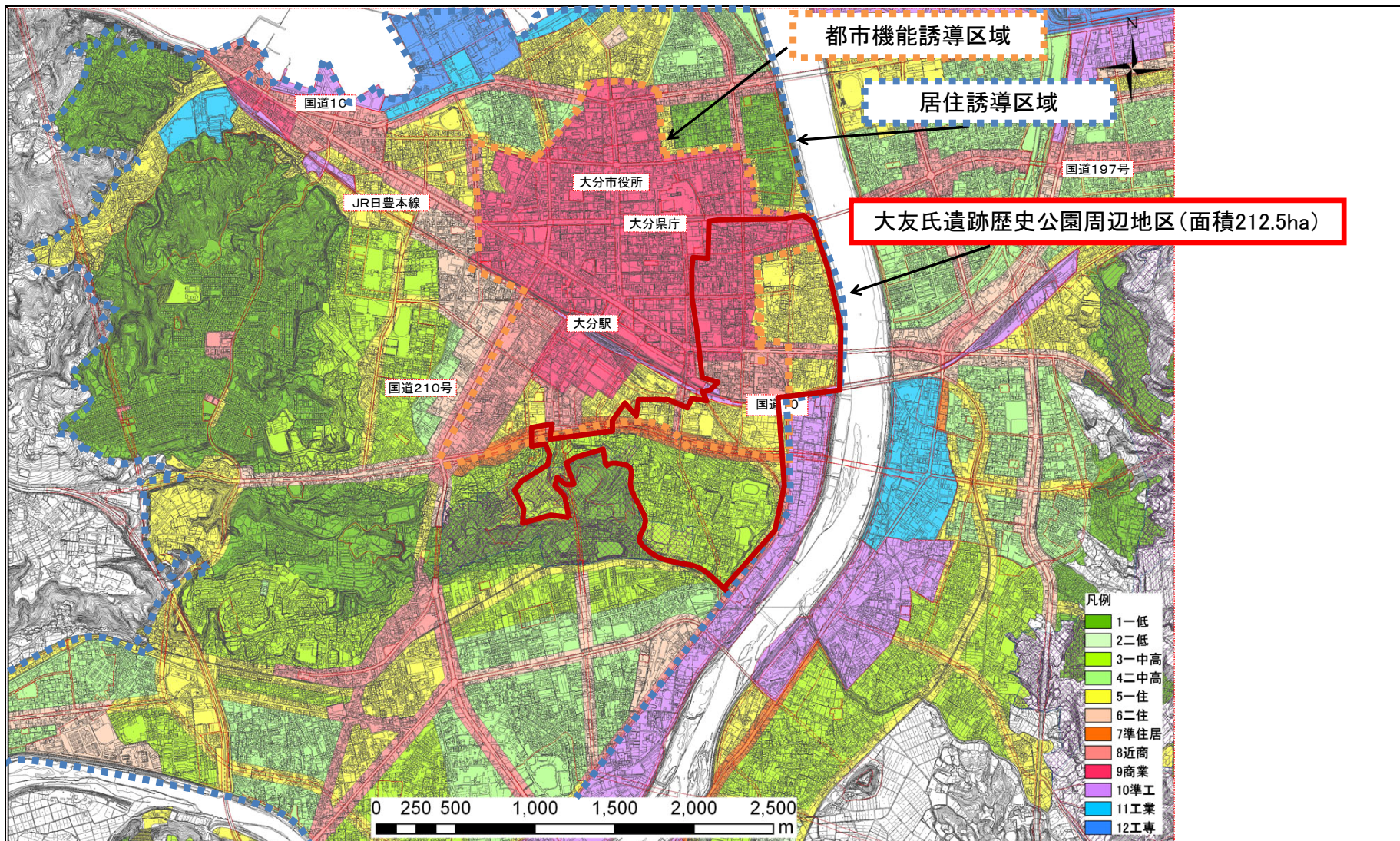
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
大友氏遺跡への来場者数	人/年	大友氏遺跡内に所在する大友氏遺跡関連施設への来館者数や、関連イベントへの参加人数、大友氏遺跡全体を訪れる観光客・来訪者の人数	目標①・②の指標として用いる。大友氏遺跡歴史公園内に歴史・文化情報を発信する拠点施設を整備するとともに、対象エリア内の道路整備や道路修繕を行うことで、公園までの利便性を高め、大友氏遺跡への来場者数を増やす。現在大友氏遺跡体験学習館来館者は9,000人代で推移していることから、計画最終年度には18,490人に増やすことを目標とする。	9,149人	平成26年度	18,490人	令和2年度
大友氏遺跡歴史公園周辺地区観光ガイド依頼件数	件/年	歴史散歩コースや計画対象地でのガイド案内件数	目標②・③の指標として用いる。歴史文化観光拠点としての施設整備を行い魅力の発信を行うと共に、来訪者をもてなす歴史文化ガイドを養成し、事業対象地の観光ガイド件数を増やすことを目標とする。 事業対象地では観光課による観光ガイド案内が行われている。ガイド依頼件数についてはH26・27年度2ヶ年の集計があり、件数が増加したH27年度を従前値とする。計画最終年度には100件に増やすことを目標とする。	20件	平成27年度	100件	令和2年度
大友氏に関する認知度	%	全市民から無作為に抽出した2,000人を対象としたアンケートによる大友宗麟の人物像や業績に対する認知度の割合	目標③の指標として用いる。大友宗麟の認知を指標に、郷土に魅力を感じ愛着を持つ人の増加を促し、大分市中心部における歴史文化資源を活かしたまちづくりへ意識を醸成する。 平成27年に実施した全市民から無作為に抽出した2,000人を対象としたアンケートにおいて「大友宗麟の名前を聞いたことがある」53%「人物像や業績を知っている」44.3%であったことから、大友宗麟の業績、人物像までの認知度を60%まで高めることを目標とする。	44.30%	平成27年度	60%	令和2年度
歩行者通行量	人	毎年実施している「大分市中心部における通行量調査」の土、日曜日の35地点の合計通行量	中心市街地が持つ産業、人的資源を活かし、既存商店街の活性化、個店の魅力向上を図り、まちなか商業の活性化を目指す。	343,653人	H28	352,150人	令和2年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(目標1 大友氏遺跡を核とした歴史・文化施設の回遊ネットワークづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中心市街地からの計画対象地へのアクセス強化を図る ○歴史・文化遺産を巡る史跡案内ルート整備と歴史・文化資源の顕在化を行う ○ラグビーワールドカップまでに中心市街地からの動線整備を行い、ラグビーワールドカップ後にも、回遊ルートの更なる整備を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ■中島錦町線修景整備 ■鉄道残存敷整備 ■上野歴史散歩道周辺史跡案内サイン設置 ■大友氏遺跡周辺史跡案内サイン設置 ■芸短周辺の歩道照明整備 ■市道上野2号線歩道改築 ■久大本線鉄道残存敷多目的広場整備 □上野歴史散歩道散策ガイドマップ □サイクルステーション整備
<p>整備方針2(目標2 歴史文化資源を活かしたにぎわいと人の交流をうむ拠点の形成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史文化観光拠点となる仕掛けづくりとイベントによる賑わい促進 	<ul style="list-style-type: none"> ■大友氏遺跡周辺史跡案内サイン設置 ■久大本線鉄道残存敷多目的広場整備 □大友氏館庭園整備見学ツアー □大友氏遺跡歴史公園庭園公開イベント
<p>整備方針3(目標3 地域資源を活かす人材の育成や歴史文化資源の顕在化による歴史文化情報発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民から人材を募り歴史文化を発信できる人材を育成する ○歴史文化資源情報の顕在化を行い周知を図る ○ラグビーワールドカップを契機として訪れる来街者に周知を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ■上野歴史散歩道周辺史跡案内サイン設置 □上野歴史散歩道散策ガイドマップ □大友氏館庭園整備見学ツアー □地域資源活用人材育成事業 □大友氏遺跡歴史公園庭園公開イベント
<p>その他</p>	
<p>【官民連携体制】</p> <p>○大分市中心市街地文化プログラム推進事業：文化団体、経済同友会、芸術文化短期大学、中心市街地まちづくりに関わる団体などとの連携により、大分市の中心部の空店舗や空きスペースを活用した芸術作品の制作・展示と、既存の文化・芸術資源（屋外彫刻、磯崎建築、パブリックアート作品等）を活用したまちなかアートツアーの実施</p> <p>【政策間連携体制】</p> <p>○大分市中心市街地の都市機能の増進や経済活力の向上、賑わいの創出などを総合的に推進するために、国土交通省や経済産業省、大分県、本市など多様な主体から構成された「中心市街地活性化協議会」を通じて、庁内外において、第33回国民文化祭や第18回全国障害者芸術文化祭開催事業、ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピック推進事業などと横断的に連携を図る</p> <p>【事業完了後の継続性、人材育成、維持管理費の低減】</p> <p>○大友氏遺跡歴史公園などの歴史・文化観光拠点を中心として、官民連携により民間事業者の経験やノウハウに基づいた、イルミネーションやガイドツアー、生活文化展などの定期的な賑わいイベント開催により、市民を含めた来街者の回遊性や滞留性の確保を図る。また、消費や飲食購買の意欲を活性化させるとともに空き店舗や空き家の解消に努めることなどにより、中心市街地の活性化を図り、持続可能なまちづくりに取り組む</p> <p>○(株)大分まちなか倶楽部などでまちづくりに携わる「ひと」と連携し、まちづくりの担い手を育成することや、大友氏遺跡の観光ガイドの育成を行うことにより、幅広い世代で賑わう持続可能なまちづくりを目指し、魅力あるまちなか商業拠点の形成を図る</p> <p>○整備した公共空間における公物管理の権限を民間に付与することで、維持管理費の低減を図ることを検討する</p> <p>【立地適正化計画の方針との関連】</p> <p>大分市立地適正化計画では、「元気・安心・快適な暮らしを支える将来にわたって持続可能な『多極性ネットワーク型集約都市』も形成を基本理念とし、これを踏まえ4つの都市づくりの基本方針を定めている。関連事業については下段に表記している。</p> <p>方針1：県都にふさわしい風格とにぎわいのある大分都心拠点づくり (関連事業) 鉄道残存敷整備、市道上野2号線歩道改築、久大本線鉄道残存敷多目的広場整備</p> <p>方針2：地域特性を生かした個性と魅力ある地区拠点づくり (関連事業) 上野歴史散歩道周辺史跡案内サイン設置、大友氏遺跡周辺史跡案内サイン設置、大友氏館庭園整備見学ツアー、大友氏遺跡歴史公園庭園公開イベント</p> <p>方針3：だれもが安心して暮らし続けることができる居住環境づくり (関連事業) 中島錦町線修景整備、芸短周辺の歩道照明整備</p> <p>方針4：交流とつながりをはぐくむ公共交通ネットワーク (関連事業) サイクルステーション整備</p>	

大友氏遺跡歴史公園周辺地区(大分県大分市)	面積	212.5 ha	区域 長浜町1~3丁目、錦町1~3丁目、金池町3~5丁目、大手町の一部、顕徳町1~3丁目、六坊北町、六坊南町、元町の一部、上野丘東、上野町、上野丘西、上野丘1~2丁目、金池南2丁目の一部、桜ヶ丘の一部、三芳の一部
-----------------------	----	----------	---



大友氏遺跡周辺地区(大分県大分市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	■大目標 歴史と文化を活かした魅力ある新しい大分の発展に向けたまちづくり <input type="checkbox"/> 目標① 大友氏遺跡を核とした歴史・文化施設の回遊ネットワークづくりを行う <input type="checkbox"/> 目標② 1300年間の県都を体現する石仏や神社仏閣、国指定史跡大友氏遺跡などの歴史文化資源を活かしたにぎわいと人の交流をうむ拠点を形成する <input type="checkbox"/> 目標③ 地域資源を活かす人材の育成を行い、歴史文化情報発信を行うほか、インバウンドに対応した歴史文化資源の顕在化を行うことで内外の認知度を向上を図る	代表的な指標	大友氏遺跡への来場者数 (人)	9,149人	(H26年度)	→	18,450人	(R2年度)
		大友氏遺跡歴史公園周辺地区観光ガイド依頼件数 (件)	20件	(H27年度)	→	100件	(R2年度)	
		大友氏に関する認知度 (%)	44.3%	(H27年度)	→	60.0%	(R2年度)	

